
ある ひかり

ヨネ@ハイテンション

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ある ひかり

【コード】

N9159D

【作者名】

ヨネ@ハイテンション

【あらすじ】

語りだす中年男性。彼は何を伝えたいのか。一体何が起こるとい
うのか？

私は薄暗がりの部屋に籠り、ただひたすらに指を動かし、この文章を打ち込んでいる。

たくさんの機械が私の周りを取り囲んでいるが、もはやそれが何の機械であるのか私にはわからない。

わかるうとする気持ちもない。

おびただしい機械は、低いうなり声を上げ続けている。

昔はそれらの音が、私の脳の中を揺らし不快な気持ちにさせていた。

しかし、今は気にもならない。

それは、私の脳が考える力を失ってしまったているからだろうか。

私はただこの世界があつた事を伝えたい。

いや、そんな大層な事ではないな………

ただ、ただ無意味にこの記録を残しているだけなのだ。

人類はこの星を滅ぼす寄生虫である

そんな事を言った人がいた。

それは大きな間違いだ。

なぜなら、人類如き生物に、この星を滅ぼす力などという大それたものはありはしないからだ。

我々はただ生かされているに過ぎない存在なのだから。

緑の大地に、美しく清らかな水が流れ込み、胸いっぱいすがすがしい空気を吸い込む。

この星はそんな姿を望んでなどはない。
それを望んでいたのは人類だけ。

私も美しい世界を望む人類の一人であった。
美しい世界の中、生まれ、愛し合い、子を作り、家庭を作り、そ
して老いて死んでいきたかった。

何も逆らう事などしなくて良い。
なすがまま、なされるままに。

この星の表面の、ほんのわずかな場所に居られれば良かった。

私の指が作り出す文字を映し出していたディスプレイが不意に消
えた。

電力の供給が途絶えたようだ。

真っ黒な画面の中に、私の顔が映りこむ。
その中に居る人物は私に違いないのだけれど、それが私だという
実感が存在しなかった。

まるで別の世界の、別の生き物を見ているかのような。
動物園で見たことのない動物を見ているような、そんな気持ちに
囚われた。

予備の非常電源に切り替え、私はディスプレイを起動しなおすと、
画面に映りこんでいた私の顔は消え失せた。

いつから私はこの部屋に居るのだろうか。
もしかしたら、私は産まれてからこの部屋を出た事がないのでは
ないか？

この部屋の外に何があるのか、知りはしないのではないか？

いや、本当は私は知ってるのだ。

この外が………世界がどうなっているのか知っている。

知りたくなど無い
知りたくなどはなかった。
けれど私は知っているのだ。

この外、まさに悪夢と言う名の現実を私は知っているのだ。

見たくなどはなかったのに
知りたくなどなかったのに

私に目などなければ見ることはなかった。

私に耳などなければ聞く事はなかった。

私に心などなければ、苦しむ事などなかった。

なのに、なのに、なのに、なのに

私には私の分身とも言える存在が居た。

『居た』

それは過去形の言葉だ

今は存在しないという事を表してしまう呪いの言葉だ。

その私の分身は……私と私の愛する人から産まれた分身は
笑顔で私の顔を見つめてくれた。

私も見つめ返した。

そうすると私の愛しいあの子は、しばらくぼーっと私の顔を見た
後、ニッコリと微笑んでくれたのだ。

私はそれで充分だった
満ち足りていた。

それ以外に何も要りはしなかった。

なのにそれで満ち足りてない人がいた。
多くのものを望むものがいた。

ただそれだけなら、それで良かったのだ。
それが、その人物が

数百万分の一の確立で、権力者という劣悪な存在ででなければ、
それで済んだ話だったのだ。

満ち足りる事を知らないその権力者は、この星は自分のものである
と思い込んでいた。

だから、それを証明したかったのだと思う。

この星という存在よりも、自分が偉いのだと言う事を。

狂った権力者は狂った科学者にある事を命じた。

「この星を我々の思うように変えてしまえ」

狂った科学者は答えた

「変えましょう変えましょう。 私たち人類が変えてしまいましたよ」

5

それはとても単純な事

単純な行為。

この星を変えてしまうために、何百何千という爆弾を爆発させる
行為

私は止めました。

しかし私の行動で止まったのは、その行動で止まってしまったのは
私の愛しい分身の生命だけだったのです。

私の存在も、実はもう止まってしまっているのかもしれない。
それでも、何故私はこのような事をしているのでしょうか

それは私自身にもわからないのです。

「私たちはこの星の上に住まわせてもらっている動物です。ただの動物です。それ以上でもそれ以下でもないのです」

ああ、そろそろ時間です

狂った人間が狂った時間を生み出します。

あなたはどう生きますか？

「なんだこれ……」

俺は気持ち悪くなってノートパソコンのディスプレイを閉じた。

なんとなくネットサーフィン中に見つけた不思議な動画。

ついつい引き込まれて全部見てしまったけれど、一体なんだったんだろう。

新作映画の宣伝かなにかなのかな？

素人の作ったMAD作品にしちゃ手が込んでるよなあ……

「あなたはどう生きますか？

んなこと言われても、こちらら適当に生きるしかないんだって」

俺はポケットからタバコを取り出し火をつけた。

安アパートにタバコの煙が充満する。

また少し気になってノートパソコンを開いてみる。

あれ、これってライブ映像だったのか?!?!

そのとき、窓の外に光が見えた。

「なんだなんだ、これ……」
俺の体はタバコと一緒に煙になって消えた。

それでもこの星は変わらない。

大気が汚染されようと、陸地が海に沈もつと、放射能が降り注ぐ
と

それでもこの星は変わらない。

変わってしまうのは、あなたの愛しい人の表情だけ
それを知って絶望する鏡に映るあなたの顔だけ。

おしまい

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9159d/>

ある ひかり

2009年4月24日23時03分発行